

素直に正直に、真面目に生きる

校長 桐野 和之

ずいぶんと昔の話です。高校サッカーの全国選手権を制覇した四国のある高校の監督さんが以下のことをおっしゃっていたことを記憶しています。

『人が長い人生を生きていく上で、素直であること、陽気であること、真面目であること、このうちのどれか一つが本人にあれば、大概の人生を切り拓いていける。心配ない。』この発言に私は強く共感したことがありました。

なぜなら、この三つのうちの素直であること、あるいは、真面目であること、このことを適切に実行し、凄く成長を遂げたていたクラスの子がいたからです。

ある日の放課後、女子生徒が「先生、どうすれば勉強ができるようになり成績が上がりますか」と私のところへ相談しにきました。

私は質問を受けたときに、①授業をしっかり受ける、②自分なりの復習ノートをつくる、③必ず毎日復習する、④分からないことはすぐに聞く・質問する、⑤できれば問題集などにも取り組む、などのことをその子に伝えました。そうすると言われたことそのままにその子は素直に、しかも真面目に実行し始めました。

意欲的に学習に取り組み、徐々に成果が現れ、その年の終わりには本人にとっても信じられないぐらい、成績が上昇しました。本人は大変喜んでいましたが、私はものすごく驚きました。

ところで、何を言いたいのか。それは正直に素直に、真面目に生きることが人生において常に大切だということです。そのためにはウソをつかない人になること。

例えば学校生活で人や学校の大切な物を壊してしまった。そのようなことは起こりうることです。そして、それにより他の人が不快な気持ちになっている。そんなこともあり得ますね。でも、その次の行動が大切なのではないのでしょうか。

「これを先生や友人に言えば叱られる。でも自分は叱られたり、嫌われたりしたくないから正直には言わない。」このように考える人はいるのではないのでしょうか。たぶん本人は「本当のことを言わないといけない。自分が悪いことをした」。このように考えているのではと思います。

でも、真実をしっかりと伝える勇気が出ないのだと思います。しかし、それでは自分にも、人にもウソをつくことになります。私は貫井中生には悪いことはあくまでも悪いと考え、判断できる人になってほしいと願っています。

「見つからなければ大丈夫だ」このような考えは絶対にしないでほしい。それでは人間としての成長を妨げることになります。

以前ある学校で三年生が学校のものを壊したときに、正直に先生方に勇気をもって告白していたことがありました。ウソをつかないその姿勢や生き方は大変清々しく気持ちが良かったです。みなさんにもぜひ見習ってもらいたなと思います。



オリンピック・パラリンピック教育兼道徳授業地区公開講座講演会

令和2年11月28日(土)

講師：豊田 あみなさん

2019柔道東京世界選手権パキスタン女子代表、東京2020パキスタン代表候補

平成26年度貫井中学校卒業生

現立教大学コミュニティー福祉学部コミュニティー政策学科在籍(3年生)

Q 豊田さんが在籍していた頃の貫井中学校の雰囲気はどんな感じでしたか？中学校生活の思い出を教えてください。

A 今の貫井中とあまり変わっていません。今の皆さんと同じように大きな声で生徒たちがいさつできましたし、元気で活気がありました。私もよく叱られたことがありますが、今ではそれが糧となっています。

Q 中学校生活で大切にしていたことはどんなことですか？

A チャレンジすることです。失敗しても良いからとにかく挑戦することです。そうすることで成長していけると思います。

Q 大学と中学校の生活で大きく違うと思うところはどんなところですか？

A 自由度が違うと思います。中学生の生活はいろいろなしぼりがあり、ルールがたくさんあります。周囲の人たちもいろいろと教えてくれ、守ってくれます。門限もその1つだと思います。しかし、大学生はすべてが自由です。そしてすべてが自己責任で、誰も教えてくれないところが違います。

Q パキスタンの魅力を教えてください。

A パキスタンは人口の97%がイスラム教徒です。その宗教の教え、習慣の中に困っている人がいれば必ず当たり前のように助ける人々の人柄が良いところで、国の魅力だと思います。

Q 言葉の壁をどうやって乗り越えましたか？

A 最初はパキスタンの言葉は全然しゃべれませんでした。少しずつ勉強して話せるようになりました。

Q 柔道を始めたきっかけを教えてください。

A 5歳の頃、姉の友人の関係で柔道を見学したことがきっかけでした。柔道を見学して、人を投げる姿を見て、自分も絶対にやってみたいと思いました。

Q どうして柔道代表になるまで続けようと思ったのですか？

A 高校ではサッカーをやりたいと思ったが、中学校時代の負けた悔しさから、このままでは終われない、高校では絶対に日本一になりたい。そのために、強豪校で切磋琢磨して、頑張りたいと思いました。

Q 人生で一番辛かったことはどんなことですか？

A 柔道で膝をケガして、3回手術をして、1年半ブランクをつくったことです。柔道ができない、練習できなかったことが一番辛かったです。

Q 今までの人生の中で感謝している人はいますか？

A 周囲の自分をサポートしてくれる人すべてに感謝の気持ちがある。友人であったり、先生であったり。もちろん自分の親にも感謝の気持ちがある。また、原点は貫井中学校の柔道部です。部活動を通じて育ててもらった感謝の気持ちがあります。

Q 努力を続けるためにはどんなことが大切ですか？



A 目標をもつことです。そして、意志が強ければ必ず乗り越えられるという強い気持ちをもつことが大切です。

Q 大切にしている言葉を教えてください。

A 恩師の高橋健司先生に頂いた、「努力と誠実さが実を結ぶ」です。心が折れそうになったことがたくさんあったが、その時にこの言葉を思い出しました。今でも大切にしている言葉です。

Q 東京オリンピックが延期になったときどんな気持ちでしたか？

A 予選などが中止となり、それまでにオリンピックを目指して必死に準備してきたのでショックでした。体調を崩して、1ヶ月寝込みました。

Q 国の代表として試合に出場するのはどんな気持ちですか？

A 周囲の人たちには思いっきりやると言われます。でも、いざ試合となると、勝たねばいけないというもの凄いプレッシャーがあります。昨年、東京の世界選手権に出場して1回戦で負けましたが、でも僅か4分間の試合であっても、その試合までのことなどを思い出し、ワクワク感がありました。

(当日、3年生は体育館、1、2年生は教室でZoomを通じて講演を聴きました。)



先生の中学校時代の思い出～シリーズ①～

(1) 「人生を捧げるスポーツとの出会い。揺れ動く気持ちの先に。」

男性教諭

私がバスケットを始めたきっかけは、小学六年生の春に行われた校内バスケットボール大会。ルールも何もわからないけど、投げたボールがリングに入った。楽しかった。だから、簡単な気持ちでミニバスケットボールクラブに入団した。

入団して数日で市民大会があった。市で一位のチームとの対戦だった。結果5-120。何もできなかった。周囲の大人からはあのチームから5点も取れたのはすごい。と褒められた。悔しかった。

私はキャプテンを任され、毎週怒られ続けた。チームが上手くないこと、試合に勝てないのは頑張っていないからだと言われた。試合のプレッシャーに勝てず、自分のリングにシュートを決めたこともある。練習は毎週土日、8時から21時まで。体が痛くて動けないのに、練習の終わりには体育館を100周する。何度も体温計を擦り、嘘をついて練習を見学したこともある。辛かった。何度バスケットを辞めたいと思ったかわからない。

今、あの頃のことを思い出しても、絶対に戻りたいとは思わない。私は一生忘れない。そんな時、父親に言われた言葉「本当に辞めたいなら辞めればいい。でも、一度本気でやると決めたことを簡単に投げ出す人になってほしくない。諦めるには早すぎる。」

あっという間に時は過ぎ、ミニバスを卒団。希望に満ち溢れた中学校生活・・・部活動見学を兼ね春休みに中学校の練習に参加した。先輩達は皆優しく、上手だね、期待しているよ！と言ってくれた。その時はその言葉が嬉しかった。そう、その時までは。



(2) 「“嘘”からはじまった中学校での思い出」

女性教諭

数年前、私は●●中学校に入学しました。私は小学生のときからバレーボール部に入ろうと決めていました。しかし廃部になることを知り、さあどうしたものかと思いまし

た。そこで数か所体験入部に行き、ある部活動に行ったときに知り合いの先輩から、「この部活に入れば週1でパフェが食べれるよ！」「好きな時に休めるし試合に勝てばお金がもらえるよ！」・・・といったあからさまな“嘘”に当時の私は気づくことができず、その部活に入ることを決意しました。

しかし、入部してから何週間経ってもパフェは食べられません。練習も休める雰囲気ではありません。疑問に思った私は、先輩に「パフェはいつ食べれますか？」と聞きました。すると、「そんなこと言ってないよ」と言いました。その瞬間、私はだまされたことに気づき、その日から私の□□部での3年間が始まったのです。

□□部での活動は、今思い出しても何よりも苦しく、厳しいものでした。習い事との両立も難しくなり、悔し涙を流すこともありました。中3のメインの大会直前に怪我で1日入院をし、その大会では自分の力の半分も出すことができませんでした。しかし、3年間で1度も「辞めたい」と思ったことはありません。理由は今でもわかりません。ただ、□□部での3年間があったからこそ、様々なことを乗り越えられ、今の職業につながっていることは間違いありません。今では、嘘をついた先輩に感謝をしています。



□□家のある方の言葉で「己を尽くして成るを俟つ」というのがあります。「自分の全精力を尽くして努力した上で成功・成就を期待すべきである」という意味です。コロナ禍で苦しい状況が続いていますが、今学んでることを無駄なことだと思わず、自分の糧として日々の積み重ねを大切にしてください。

心温まるちょっといい話

12/15（火）夕方貫井中学校に地域の方からの1本の電話がありました。

「地域の者なのですが、感動したのでお電話いたしました。実は先ほど貫井中学校の生徒さん5人、女子3人、男子2人が迷子で困っていた2、3才のお子さんの面倒を見ている場面を見かけました。その子はおばあちゃんとはぐれてしまったらしく、中学生が優しく対応してくれていて、このような中学生がいる貫井中学校に自分の子どももぜひ入学させたいと思いました。」

という内容のお電話でした。

周りに見られているから、とか何か見返りがあるからやるではなく、自然と手を差し延べて上げられる優しさがある貫井中生の話聞いて心が温まる思いがしました。